防災だより その50

防災専門官　野田（のだ）　秀敏（ひでとし）

今年の災害について

今年も残り2カ月となりました。昨年末、新型コロナウイルス感染症が中国武漢市で発症し、翌年2月には、日本で初めて感染者が確認されるなど、今年は年間を通じて新型コロナウイルス感染症が、日常生活や仕事などに長期にわたり大きな影響を及ぼし生活が一変しました。

●風水害について

○6月25日豪雨

九州北部で局地的豪雨になり、長崎・佐賀両県は避難勧告と避難指示（緊急）を発令。長崎県では、記録的短時間大雨情報を3回発令「50年に1度の大雨」になりました。

○6月27日豪雨

福岡・佐賀両県に、線状降水帯が形成され、久留米市で1時間92・5ミリと観測史上最大の雨を記録、朝倉市でも6月観測史上最大の雨になり、県内各地で大雨や洪水警報が出されました。

○令和2年7月豪雨

熊本・鹿児島両県で猛烈な雨が降り、大雨特別警報を発令。特に、熊本県南部の人吉市や球磨川沿いでは甚大な被害を受けました。その後、梅雨前線の南下に伴い、大分県から福岡県を流れる筑後川が氾濫。本市でも、5日から11日にかけ430ミリの降雨を記録し、四王寺山沿いの土砂災害危険地域に「警戒レベル3避難準備・高齢者等避難開始」を2回発令、避難所16カ所を開設しました。

○9月の台風10号

6日から7日にかけ記録的な勢力で台風10号が接近し、昭和の三大台風並みの勢力になる予想でしたが、海水温の低下により勢力が弱まり、九州の西海上を北上しました。

市は新型コロナウイルス感染症対策を念頭に、避難所を9カ所開設、290世帯545人が避難されました。

●地震災害について

今年は、現在のところ大きな地震はありませんでしたが、10月末まで依然として日本各地で震度3～5の地震は、断続的に発生しました。

年間地震発生回数は、平成28年の熊本地震の年は、6千587回、平成29年2千25回、大阪地震、北海道胆振東部地震があった平成30年は2千179回、令和元年は千564回と、発生回数に差はありますが、概ね毎年、約2千回前後の地震が発生しています。

皆さんが住む太宰府市直下には活断層が二つ存在し、一つは平成17年、玄海島沖を震源とした西方沖地震で知られる警固断層、もう一つは、福岡市東区から市北東部の北谷から内山地区を縦断する宇美断層です。

特に、脅威なのは警固断層で、西方沖地震の際は北部の海面下の活断層が動いたのみで、太宰府市直下にある南東部の陸上部分（約27キロ）は動いておらず、今も歪（ひずみ）が蓄積されたままの状態です。

警固断層30年間の地震発生確率は、最高ランク「Sランク（高い）」に指定され、マグニチュード7.2、市の震度は「震度6強と震度6弱」の強い揺れが想定されています。

●新型コロナウイルス感染症

終息は不透明ですが、三つの「密」を避け、新しい生活様式について、引き続き市民の皆さんのご協力をお願いいたします。

コロナウイルスと災害が重なると複合災害になります。

避難所での「密」状態を防ぐため、前もって避難の仕方を考えておきましょう。

①在宅避難

自宅が浸水する可能性が低く、土砂災害の危険がない、あるいはマンションの上層に住む人などは、自宅にとどまる在宅避難も有効です。

②身近な避難所への避難

市が、災害時に開設する避難所の場所、そこまでの経路と所要時間を確認しておきましょう。

③分散避難

安全が確保できる親戚や知人宅への避難も検討し、また、避難時はマスク、体温計、消毒液などを携行しましょう。

災害は「とき・ところ・ひと」を選びません

被害を最小限に抑えるには、市の行政や公的機関などによる救助・援助など（**公助**）はもとより、市民の皆さんによる「自分の命は自分で守る（**自助**）」、自分たちが住む「地域の近隣の人と互いに協力し合う（**共助**）」、この三助が有機的につながることにより、災害による被害の軽減を図ることができます。